

祝オリンピックイヤー! アスリート系輸入車チューニング特集
令和最初の年間スタコンキングが決定!

2020年2月10日発行 - 発売 (隔週月1回10日発行 - 発売) 第20巻 第2号 通巻第298号

afimp

[オートファッション・インプ]

3 2020
MARCH
Vol.293

www.kotsu-times.jp/afimp/

STYLE UP CAR
of the YEAR
グランドチャンピオン
発表



TUNING!

美速の輸入車チューニング!

四半世紀以上のフリークが 遅咲きの快挙を成し遂げた

戸塚サンのTTTSがついに年間ランカーへと上り詰めた。インプ創刊2号目のスタイルアップカーコンテストにセプター・ワゴンで参加した経歴を持つ達人だ。なんと当時のルールでは逆輸入車もアリだった。そんなインプスタッフでさえも忘れてしまっている事柄を思い出させてくれるほど歴史を感じる人物!? とにかく熱烈なフリークに間違いはない。

それでいて、その後インプ紙面に登場したのは約4年前。20年以上のプランクを乗り越えて2回目のスタイルアップをTTTで果たした。スタイルアップを離れていたわけではないが表舞台には上がらなかったのだ。久々の参加ながら作り込みには隙きがない。スタイルアップ愛にあふれていたそのクルマは、年間ランカーには残らなかったものの、単独取



AUDI TTTS

オーナー 戸塚一彰さん from 千葉県・ジェットストローク

地味過ぎず派手過ぎない、余裕を感じる心地良さ 経験豊富なテクニシヤンの 怒涛の凄技、快進撃

見れば見るほど好きになる、そんな深みのある雰囲気を携えた
スタイリッシュメイクは、ガツガツしていない品の良さがたまらない。
時間をかけてスタイルアップを正常進化させてきたセンスが最強の武器となる

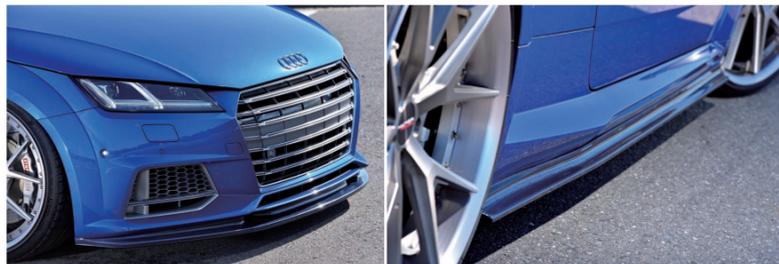
写真●ウィズ・フォト 文●増田高志



オーナー
戸塚一彰さん (千葉県香取市)
from 千葉県・ジェットストローク

オートファッション流のクルマ作りを徹底している戸塚さんは大の守谷孝一ファン。「クルマをすべてにはしたくない」と言い放つあたり、守谷さんの感性をしっかりと伝授しているように思う





↑USグリルに変更していてもノーマルと同様に横線デザインを踏襲。RSグリルはクルマのコンセプトから外れてしまう。ブラックもチョイスできたがモール類に合わせるためにメッキを残してシルバーを選択する。フロントダクトはディフューザーの外枠と同様にホイールカラーに合わせてブラックからチタンシルバーに変更だ。控え目なデザインのサイドステップはキャンディブルーで統一感を演出して、前後パートに繋がりを持たせている。フェーエルキャップもキャンディブルーのカーボンを採用している

↓GTウイングはもちろん、ハッチに付く小ぶりなスポイラーさえも取り入れていない。クーペならではのルーフからリアゲートを滑り落ちる流麗なラインを活かすためだ。その分アンダーディフューザーには注力する。大半はキャンディブルーのカーボンだが外枠をノーマルっぽいメッキがイメージできるチタンシルバーにペイント。マフラーはAPRの設定がなかったのでワンオフだ



↑繊細ながらダイナミックな押し出し感のあるデザインはクルマのキャラクターにピッタリとハマる。特にチタンシルバーが素材のメタル感を引き上げて機能美を強調させる。ブレーキはフロントにストップテックを導入。リアはサイドブレーキの問題で簡単にはキャリパー変更ができないので、ローターのモディファイとキャリパーの塗装で、前後で違和感を出さない工夫を施す



SPEC
 【エクステリア】
 add/パフォーマンス・フロントリップスポイラー
 バランスイット・サイドステップ
 バランスイット・リアディフューザー
 USグリル
 クリアスモークテール
 各部キャンディブルークリア仕上げ
 各部ペイント
 【インテリア】
 アルミスカッフプレート
 クラブスポーツキット（バー&ネット）
 マニアックス・フットレスト/バドルシフト
 ゼロ・マット類
 【ホイール&タイヤ】
 ハイパーフォーシドHF-LC5（9.5×20）
 ミシュラン・パイロットスポーツ4S（255×30）
 【サスペンション&ブレーキ】
 KW車高調Ver.3
 ストップテック6ポットキャリパー+380φローター
 バランスイット・リアビッグブレーキローターキット
 【チューニング】
 APRステージ2/エアクリナー/インタークーラー/ダウンパイプ
 ワンオフ・マフラー
 034モータースポーツ・エンドリンク/マウント類
 CPMロアレインフォースメント
 ユーロコード・スタビライザー
 エンジンルームカーボンカバー



↑セパンブルーメタリックのボディを連想させるカラーリングでコーディネートしたゼロフロアマット。クリアリアウンドウなので見栄え良くカーゴルームも揃いのデザインでセットアップ。その奥にチラッ見えるシートのバックシェルはホイールと同じチタンシルバー仕上げを狙っている。バドルシフトは指先によく馴染むマニアックス製

↑より本格派を目指すために外観の躍動感に合わせてチューニングも抜かりなくAPRのステージ3を導入している。ノーマルから約120psアップの390ps仕様だ



AUDITTS

トレンドを取り入れて 果敢に挑む 生粋のヨーロッパ・メイク



トなスポーツルックの飽くなき探究、コイツに尽きる。サーキットの香りがブンブンなレーシングスタイルとは一線を画する、スピードを感じる精悍なルックスにまともな上げ。大切な女性に不愉快な思いをさせずにデートできることが大前提だ。もちろん思い入れタップリに仕立て上げてはいるが、そんな暑苦しい思いは微塵も感じさせないスマートさを心掛けている。これがなかなか難しいという。やり過ぎる一歩手前でやめる勇気。こればかりは流石の戸塚サンも何度も失敗して後悔したからこそ身につけられた手法だ。スタイルアップが好きほど取得するのが難しい奥義といえる。

一随所にひと手間かけている、このクルマの真のポイントはカーボンのキャンディブルー化だ。ボディカラーに合わせたこの作戦が想像以上の効果を発揮した。バランス良くセットアップしたカーボンエアロの存在感を絶妙にアレンジしている。ダイレクトなカーボンだと無骨過ぎるが、逆にペイントするとオンドックスにまともな仕上がりが。そのいいところ取りを見事に成し遂げたのだ。

あえてハニカムメッシュでないゲリルやメッキを残したモール類などエレガントさの主張も抜かりない。見逃しがちな部分ではウインドウのスモークフィルムを剥がしてクリアにしたこと。ピュアスポーツらしさの演出とカーゴルームのマットを見せるためだ。その延長線でシートの背面もカラーリングしたいそう。ざっとインブウケするようなクルマ作りで攻めてきた戸塚サン、その功績がやっと認められた。万歳！

材をお願いしたほど素敵だった。そして今回は、4年前のクルマから、同じTTながら「S」の役が付いたモデルに乗り換えての参加。つまり3回目のスタコン出場で年間ランカーをゲットしたことになる。上出来な結果ではないだろうか。

スタイルアップと真剣に向き合っていて、手間隙かけて取り組んでいる心意気は、間違いなくクルマに勢いを与える。それが多くのスタイルアップカーの中にあっても埋もれることなく見出せる、気合いのようなものを放っているように感じる。

こうして年間を戦えるポジションにつけることは、運も大いに関係する。なんだかスタコンの神様がいて、ちゃんと実力を評価してうまいことやってくれているような、そんな目に見えない力が働いたと感じてしまいうクルマだ。年間の枠組みの最終組ってこともあるが、素知らぬうちに月間のナンバー1となり、その流れにのって淀みなく年間4位の称号を手に入れた華麗なる受賞だ。

クルマの仕立てっぷりは決して分かりやすくはない。圧倒的なインパクトがあるわけではないし、目を見張るような奇抜さだって持ち合わせていない。それにももかかわらず、きっちり評価されたことが、当事者ではないこっちは、うれしくなってくる。長年ヨーロッパメイクに軸足を置いてスポーツルックにこだわりつつけている戸塚サンは、正直言って鼻息したくなってしまう。四半世紀以上の経験を持つその手法はもはや伝統芸。個人的にも存分に共感できるスタンスが心地良い。

一貫したコンセプトは「エレガンス」